

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 育愛会
施設名	明日香保育園
報告者（役職）	竹内久美子（園長）
住所・連絡先	東京都北区浮間4-1-3
	☎ 03-5916-1088
	E-mail asuka001@asuka-hoikuen.jp

○タイトル（保育計画）

自分大好き！友だち大好き！元気な子ども！

○主な助成備品

木製大型複合遊具「天使たちのおうち」

1. 保育計画策定の目的

明日香保育園では木育に力をいれ、心やすらぐ木製の手作り家具を使用し、テーブルや椅子なども子どもの発達に合わせてサイズを変えることのできる工夫をしている。

今回小さな園庭にフィンランドの「レイキモッキ」からヒントを得た大型複合遊具「天使たちのおうち」を造り、クライミングウォールで手指と足の裏を使って登り、足腰を鍛え体幹機能の発達を促すとともに、2階のおうち（すきま空間）では丸太の椅子や手作りテーブルでおやつを食べたり、ままごとをしたりと秘密の基地の役割も兼ね、ごっこ遊びや隠れ家として楽しめるようにする。

2. 具体的な実施内容

・**夢を育てる**・・・27年12月22日の午睡明け 子ども達の日覚め時にサンタさんが「天使たちのおうち」のニス塗りをしている姿を見せ、サンタさんからのプレゼントとして子ども達にお目見え。サンタさんの作っていることで驚き、子ども達の夢は膨らみ、寝ぼけまなこの子ども達から大歓声が沸いたほどである。

・**想像性を豊かに**・・・すきま空間での秘密基地で大人の目を気にせず「見立てなりきり遊び」を楽しませる。2階から砂場にかけて2か所に雨どいを使用した電話機能の筒をおろし、声が筒を通して相手に伝わる不思議さを味わい、電話ごっこからおうちごっこへの展開を図る。テーブルを囲んで手作りお菓子やおにぎりなどを食べてパーティごっこを楽しませる。

・**体幹機能の発達を促す**・・・2mの高さの2階部分にクライミングウォールとすべり台をつけ、昇り降りの場所とする。保育士の手助けはなく、自分の力でクライミングウォールを登り切らないと挑戦できないルールを決め実践する。またクライミングウォールの左

右でグリップの位置を変えてあり、片側は高度にしてあるが慣れてくると難しい方に自然とチャレンジしている。2階からターザンロープをつるしロープにぶら下がったり、ロープに円形の板をつけブランコにしたりして握力や腕の力・平衡感覚を養う。

3. その成果と評価

◎卒園児

「天使たちのおうち」が完成して28年12月で丸1年経過する。当時の2歳児は3月までに全員クリアーし2階で給食を食べることが出来た。3月生まれの男児1人が全く挑戦しようとはせず避けていた。しばらく様子を見ていたが運動機能の問題ではなく気持ちの踏ん切りがつかないためやろうとしないことが分かった。登りたい気持ちを確かめ、安心して登っても大丈夫ということ言葉をかけながら、保育士が男児のひざの後ろに自分のひざを重ね、押し上げるように登らせ成功。1度登れたことで自信が付きその後何回も挑戦し達成感を味わうことができた。

◎2歳児

・夢を育てる

今の2歳児が1歳児の時、午睡からの目覚め時にサンタさんがニス塗りをして仕上げている姿を見て大喜びをした子ども達。現在も「天使たちのおうち」で遊ぶ時に「サンタさんからもらったんだよね」と思いだしたかのように話している子もおり、1年たった今もサンタからのプレゼントとして子ども達の胸に残っていることが分かる。

「天使たちのおうち」の2階という空間で遊ぶことにより、子どもたちの世界を味わうことができ、高い所から下を見下ろす快感も得られている。

・想像力

マイドールを「天使たちのおうち」の2階にもって行きおかあさんごっこをする⇒「天使たちのおうち」という特別な場所でのごっこ遊びなので、ワクワク感や期待感も大きい。おんぶして買い物に行ったり、ご飯を食べさせたり、寝かせたりと赤ちゃんのお世話をするおかあさんになりきり、まねっこ遊びを楽しんでいる。

2階から雨どいをおろし声が聞こえることに気付き電話遊びにつながり、おうちごっこが始まる。「カレーをつくったのでたべにきてくださいーい」と1階の砂場のおうちの子が電話で誘い、1階と2階が別のおうちの設定となりおうちごっこが展開されていた。

・体幹機能の発達を促す

12名中 11名は進級後2か月で登り切る。1名男児は言葉の遅れや斜視があり、バランス感覚が不安定なため歩行もぎこちない。最初は全く関心を持たなかったが最近では友だちのやっているのを見て男児もクライミングウォールの側で見ている姿も見られるようになった。1月の下旬になると保育士の介助（グリップに足を置き、うしろからお尻をそっとフォローする）がなくても自力で登り切り、全員クリアーとなる。

全体的に子ども達の登っている姿を見ると最初はグリップの形が大きい左側を登っていたが自信がつくと右側の小さくて持ちにくいグリップの方に挑戦してクリアーしていた。

また、2階からターザンロープをつるしぶら下がったり、ロープに丸い板を取り付けブランコにしたりと工夫し体を使っての遊びを発展させてきた。

空間認知能力を高め、握力や腕の力や足の突っ張る力などが付き、この遊具での遊びを通して体幹機能が発達することと危険を察知する注意力が育つことを感じた。

◎ 1 歳児

・ 体幹機能の発達

➤ 空間認知能力・・・グリップを掴むための距離感や足を置く位置などを見ないで探るなどで空間認知能力を高めることが出来る。

◇ 6月 女児（1歳8か月）入園2か月目・・・2歳児の昇り降りを見ていて挑戦し、グリップを交互に手掴みし、見えない足場のグリップを足で探り見つけグリップの上に足を乗せて踏ん張り、自分の力で2階までよじ登る。

◇ 9月 男児（1歳10か月・1歳8か月）女児（1歳11か月2名）
◇ 10月 女児（1歳10か月）
◇ 11月 男児（1歳11か月）
◇ 12月 女児（1歳11か月）
◇ 1月 男児（1歳10か月）

達成した
時期9名

◇ 登れない子は 男児（2歳2か月・1歳11か月）
◇ 女児（1歳11か月）

3名

★ 1歳児12名中9名が1月までにクリアできた。強制するのではなく周りの子どもの取り組みを見て自ら「やってみたい！」という意欲が出てきたのだと思う。

4. 今後の課題と展望

課題としては戸外にあり、雨ざらしということもあるので木材の痛みやねじのゆるみなどのメンテナンスに配慮し安全面に気を付けていきたい。

展望としては「天使たちのおうち」で遊ぶことで子ども達の総合的な運動能力の発達を大幅に伸ばすことが出来た。2mという高さのおうちへの昇り降りだが今まで怪我をした子どもは一人もいない。高さがあることで子ども達の空間認知能力を高め、注意力・集中力も養うことが証明されたということである。

また、隠れ家的要素のある空間で子ども達の夢が膨らみ、子どもの想像のなかの世界を楽しめている。電話遊びのできる筒を取り付けたり、ターザンロープを取り付けたり、ブランコを作ったりと大人の想像力と創造力で子どものあそびをさらに深め、広げることが出来ている。

今後は28年度に受賞した緑の環境プラン大賞「天使たちの苑」との調和を図り、環境面・身体面・情緒面などの観点から、より充実した子ども達の園庭となるように工夫していくつもりである。



でんわあそび



フラゴあそび



ターザンごっこ

おにぎりパーティー

